鴨川ふるさと会だより

— 第10号 —

鴨川ふるさと会発行　事務局：〒296-8601　千葉県鴨川市横渚1450番地（鴨川市役所企画政策課内）　TEL：04-7093-7828

平成25年度定期総会を開催します

長谷川　孝夫 新市長（市執行部）との市政懇談会や ふるさとセミナー（テーマ「ふるさとの魅力、再発見」）、懇親会など

皆さん、ぜひ奮ってご参加ください!!

長谷川　孝夫市長 就任のあいさつ

平成25年3月の市長選挙におきまして、多くの市民の皆様のご支持と負託を賜り、市長として市政の執行に務めさせていただくことになりました。今、課せられた使命の大きさと重責を厳粛に受け止めております。

さて、本市はいうまでもなく「美しい自然」「豊富な観光・農水産の地域資源」「充実した医療・福祉施設」、さらには「伝統と文化・歴史」を有するまちです。

私のまちづくりに取り組む基本方針は、先人の努力により創り上げられた素晴らしいこの鴨川を受け継ぎながら、「誰もが明日への希望をもって暮らせる安全で豊かなまち」、そして、「鴨川のまちに住み、学び、働いて良かったと実感できるまち」として、さらに発展させ、市民の皆様が誇れるまちにすることです。

私は、これまで多くの市民の皆様とお会いし、多くのご意見をいただき、こうした声は、私の大きな財産となっております。まさに今の鴨川市のまちづくりでは「少子・高齢化社会の到来に向けたまちづくり」、「地場産業を強化・構築したまちづくり」、「東日本大震災後の新たな安心安全なまちづくり」が課題となっております。

孔子の教えの中で「民信無くば立たず」とあり、国民からの信頼がなければ、国家は成り立たないと説いています。人の営みは「信頼」から成り立ち、すなわち、ふるさと鴨川のまちづくりには、市民の皆様の信頼が何よりも大切です。

こうした課題に向けて、市民の皆様からの信頼を得ることに努めながら、「人づくりはまちづくり、まちづくりは継続」を理念に、10年、20年先を見据えて全力投球で取り組んで参ります。鴨川ふるさと会の皆様におかれましては一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

◆ プロフィール ◆

氏　　名	長谷川（はせがわ）　孝夫（たかお）
出身・居住地	鴨川市粟斗
生年月日	昭和23年12月9日
血液型	A型

学　歴

長狭高校（S42年3月卒）
玉川大学文学部（S46年3月卒）

略　歴

鋸南町立佐久間小学校校長
県教育庁学校指導部義務教育課長
県教育庁企画管理部教育総務課長
県教育庁企画管理部参事
鴨川市教育委員会教育長

趣　味　農作業、スポーツ観戦

©鴨川市2010

定期総会

鴨川ふるさと会の平成25年度定期総会を8月4日（日）、午後1時から、八重洲富士屋ホテルで開催します。

総会では、24年度事業報告や決算報告、25年度事業計画案、予算案などをご審議いただきます。

なお、事業計画案として、定期総会・懇親会以外の場における会員間の交流機会の創設、実施についても皆様にお諮りします。

長谷川新市長との懇談会や鴨川市総合交流ターミナル「みんなみの里」などの取組みについての講演会

今年度は、長谷川市政になって初の総会となることから、議事終了後には長谷川孝夫市長と野田純教育長を招き、将来の鴨川のまちづくりについて会員の皆様との懇談の機会を設けます。どうぞ、ふるさとの発展に、日ごろ皆さんがお持ちのご意見やアイデアをご提言ください。

さらに、コーヒーブレークの後は、鴨川市総合交流ターミナル「みんなみの里」や道の駅「オーシャンパーク」を拠点に活躍する鴨川市農林業体験交流協会の清水宏事務局長をお招きして、地産地消、ふるさと産品開発、体験農業、女性農業者の起業、ちばエコ農業推進などについてご講演をいただきます。

清水宏氏は、平成10年に鴨川市農林業体験交流協会事務局長に就任し、地域の優れた地産地消の取組みの実現に貢献し、知見や経験を有し、他の地産地消の取組みの規範となるとして、平成20年、当時の太田誠一農林水産大臣から「地産地消の仕事人」として選定されました。

さらに、平成21年には、その広い視野と経験を活かし、地域資源を活用した都市と農村の交流拠点づくりに尽力したとして、森田健作千葉県知事から農林水産功労者表彰を受賞した経歴を持っています。

平成25年度 鴨川ふるさと会 定期総会等のご案内

○日時　平成25年８月４日（日）
　　13：00～16：50（予定）

○場所　八重洲富士屋ホテル(昨年とは異なります)
　　２階「櫻の間」
　　（JR 有楽町駅京橋口より徒歩3分）
　住所　東京都中央区八重洲2-9-1
　電話　03-3273-2111

○内容　定期総会・長谷川市長からの市政概要説明・市執行部との懇談会
　・ふるさとセミナー
　　みんなみの里：清水氏のご講演
　　会員及び市執行部との懇親会
　　〈鴨川特産品の直売コーナー〉

○会費　4,000円(会員)/会員家族 2,500円

※内容については、変更となる場合がございます。予めご了承ください。

～清水さんから一言～

みんなみの里の直売所では、地元の生産者が作った物のみを取り扱い、品揃えを良くするために他から仕入れることは無く、それによって特徴ある直売所となり、皆さんにご好評をいただいております。

鴨川にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

総会出欠の連絡は7月16日まで

総会への出欠については、同封の出欠返信はがきにより事務局へご連絡ください。会場準備等の都合上、７月16日（火）までに返信くださるようお願いいたします。

60年に1度の 厳島神社の弁財天本開帳

5月4日・5日に、厳島神社弁財天の本開帳が行われました。

鴨川漁港の沖合いに浮かぶ磯村弁天島厳島神社は、漁業・航海・財宝の神様として、大漁万作・海上安全・開運繁栄を願い、多くの人々から崇敬されてきました。

その霊験あらたかな、ご本尊、弁財天（通称「弁天様」）を特別に拝観できるのが「御開帳」であり、30年ごとに行なわれています。

今回は、60年目の「本開帳」にあたり、2日間で約14万人の人出で賑わいました。

「磯村弁天島厳島神社」と大漁旗で飾られた大小様々な船によって架けられた「船橋（船渡し）」◀

同時開催! 鴨川みなとまつり

ふるさと鴨川特産品の物産市やステージ・イベントも行

なわれ、観光客はもちろん、ふるさとへ戻った方々も、鴨川の良さを再認識できた様子でした。

両日とも天候に恵まれ、大盛況のうちに終えることができました。

▶13基の神輿・山車・屋台が豪華絢爛に渡御

60年前を想い起こしてなのか、感慨深げに神輿を見守る、年配の女性の姿が印象的であった。

～一口メモ～

平安時代初期の承知年間（834～837年ごろ）に唐から帰国した慈覚大師が、布教で大浦地区に訪れた際、弁財天の像を自ら彫って安置したのが厳島神社の始まりとされ、以来、鴨川の漁業従事者に漁業、航海、財宝の神様として崇敬されてきました。現在のご本尊は、天保15年（1750年）に製作されたもので、気品をたたえた柔和なお顔に8本の手を備えた一面八臂の座像です。普段は公開されていないこのご本尊は昔から30年ごとにご開帳され、お姿を拝むことができます。干支でいう亥年と巳年がご開帳の年にあたり、亥年のご開帳は中開帳、巳年のご開帳は本開帳と呼ばれます。平成25年は巳年で本開帳の年になります。

現在は漁港の堤防と島の間に橋が架けられていますが、橋がなかった時代は船で渡るしかなかったため、ご本尊の渡御や参拝で人の往来が盛んになるご開帳のときには、漁船同士を横付けした状態で停泊させ、船と船の間に板をわたして橋代わりにしました。ご開帳では、ご本尊の弁天様の御霊代が輿に移され、厳島神社のお膝元の大浦地区を回ります。弁天様の輿を担ぐのは大浦地区の女性と昔から決まっています。ご高齢の方もご利益にあずかりたいからとわずかな時間でも輿に肩を入れます。大浦地区は4つの地区に分かれていて、輿は地区から地区へバトンタッチする形で担がれるのですが、輿の受け渡しはスムーズにはいきません。渡す側は、次に弁天様が自分たちの地区に来てくれるのは30年後ということで別れを惜しんで渡すのをしぶりますし、輿を受け取る側は弁天様に来ていただきたいので早く渡せとなります。「渡せ、渡さない」のやりとりを含め、女性たちが輿を担ぐ姿は、ご開帳の見どころのひとつになっています。

第2回ふるさとセミナー開催結果

～地域の宝　嶺岡牧を巡る～

鴨川市から南房総市の一部にかけて広がる嶺岡牧は、東西約17キロ、周囲約70キロ、総面積は1747ヘクタールと広大なもので、牧としては比較的険しい丘陵地帯に開かれています。牧の起源は平安時代にまで遡るものとされ、戦国時代には里見氏の軍馬育成を目的とした牧場でした。その後、衰退した時期もありましたが、江戸幕府の8代将軍吉宗により馬牧として再興すると同時に、インド産の白牛3頭を輸入して飼養し、牛牧としての役割も併せ持つことになりました。最盛期である1797（寛政9）年には、700頭近くの馬と70頭の牛が飼養されていた記録が残っています。

また、江戸幕府直轄牧であった嶺岡牧は、牧士と呼ばれる在地の役人の指示のもと、周辺地域の多くの村人が、管理や修繕などの目的で出役を求められるなど、牧の維持のために多大な労力を必要としました。嶺岡牧のほかには、下総国の小金牧と佐倉牧、駿河国の愛鷹牧が江戸幕府直轄牧として設けられていました。

市では、平成22年から3年にわたり牧の概要を把握するための基礎調査を実施してきました。この調査では、野馬土手や馬頭観音、馬の水飲み場、馬捕場などを確認することができ、嶺岡牧が良好な状態のまま残されていることが分かりました。牧の外周を囲う野馬土手は、高さが1メートルほどのもので、今回の調査により少なくとも総延長28キロほどを確認することができました。この野馬土手は、野馬が逃げ出したり、崖から落ちたりしないように設けられたものです。また、場所により土盛りの土手や、嶺岡地域で産出する蛇紋岩の石を積んだ石垣タイプの土手などのバラエティがあることも分かりました。

鴨川市の誇る歴史的遺産である嶺岡牧の姿と、牧に馬が放たれていたころをイメージしてもらおうと、平成25年1

欄間彫刻
「龍虎の図」

月20日に「第2回ふるさとセミナー」を開催しました。

参加者は石川会長をはじめとして22名で、市役所をマイクロバスとワゴン車に分乗して出発しました。

午前中は粟斗地区の薬王院に立ち寄り、初代波の伊八の「龍虎の図」の欄間彫刻と千葉県指定文化財である「薬師堂」を見学。昼食後はミニ講座を聴いてから、牧と村の境にある大浦木戸と千葉県最大級の馬頭観音、石垣の野馬土手を見学し、嶺岡東牧の馬捕場跡地に向かいました。馬捕場は、牧全体に放たれていた野馬を集めて捕縛するための場所で、野馬土手に囲まれた3つの枡状の捕場が並んでいます。参加者からは、「これだけの遺跡が残されているとは思わなかった。」「まさに鴨川の宝ですね。」などの感想が聞かれました。水田三喜男生家では、管理人のご配慮により、囲炉裏に火が入れられた中で、生家の概要説明を受けました。その後は、みんなみの里に立寄り、市役所で解散となりました。

市役所出発　11時30分
↓
薬王院
↓
一戦場公園
ミニ講座（牧の概要）〈昼食〉
大浦木戸
↓
馬頭観音
↓
二子・仲町野馬土手
↓
嶺岡東牧馬捕場
↓
水田三喜男生家
↓
みんなみの里
↓
市役所到着・解散　16時

会員のページ③

公開天文台を〝ふるさと鴨川〟に!!

鴨川市に天文台をつくろう会

事務局長　石井崇裕

いつから、星を見なくなったんだろう…　しかし昨今は、「金環日食」・「金星日面通過」・「皆既月食」・「ふたご座流星群」・「ロシアへ隕石落下」・「彗星」・そして来年の「はやぶさ2」等と国民の多くがフィーバーし、今年末には月明かり相当のアイソン彗星が見られると期待されて、天体観測もかなり市民権を得るようになってきた。

一方、鴨川市は首都圏から近い割に、きれいな星空でこれらの天体を観察するのに好都合な地域である事をご存知であろうか？

例えば「天の川」や「めらぼし」。２００５年のＮＨＫの高校講座、地学の天の川の収録、そして昨年２０１２年12月には、ＮＨＫＢＳのコズミックフロントの「めらぼし」という南の空の低い星「カノープス」（和名「めらぼし」＝館山布良地区からの命名の星）の収録に当会は協力している。これは国立天文台からの紹介もあるが、収録するのに近くて便利である事が理由である。また南～東の空は天体の観察において重要な方角で、鴨川はその方角を光害の無い（漁り火はあるが）太平洋に面した好環境となっている。

この天体観測に適した鴨川の地に「公開天文台」という一般の方々がいつでも気軽に星を楽しむ事ができる施設をつくろうという活動を２００３年より続けている。我々の個人観測所に口コミで多くの方が星を見に来られるからである。昨年からの数々の天文現象に対して、一般の方々も一緒に観察ができる場となる。驚くことに、このような公開天文台が、全国では千葉県だけに無い。故郷の良さは離れてしかわからないのだろうか。鴨川天体観測所（設立１９８５年）で行っている環境省の継続調査でも、鴨川は暗い星まで見える国内有数の星空環境地域であることが明らかになった。国内の公開天文台は、こうした地域に立地されており、地域が物理的に暗いのはデメリットではなく大いなる観光資源であることを証明している。

鴨川の海・山の資源に加えた空・星の自然体験を通して知的好奇心を育み、将来の日本を託す創造性豊かな子ども達を育てる。また従来の団体旅行から家族・カップルへと変化しつつある観光の宿泊型・夜の観光資源として観光地鴨川の賑わいへも貢献する。更に大学も活用できる研究型天文台は、研究者たちも首都圏近郊での研究が可能になる。天文学者・輩出貢献度「世界一」の天文台を目指すとともに、研究者には、子どもをはじめ多くの方々とふれ合う機会を提供し、来訪者には、最先端の科学を感じてもらう。

我々「鴨川市に天文台をつくろう会」の目標はもちろん

天文台（ハード）を造ることにあるが、大事なのはその効果、そしてそれを達成するための運営（ソフト）だと考えている。

教育・観光・研究の活性化に資すること。ひいては地域の経済・文化の振興に寄与することを効果と考える。

ご存知の通り、鴨川市は海・山・空と三拍子揃い、さらには温泉まである。公開天文台はもとより、他の自然系施設、観光施設とも連動して、子ども達の歓声、お年寄りのしわくちゃな笑顔、そして家族やカップルの自然体験での賑わい、更に星での癒しの時間のある鴨川を提案したい。

小中学生の小惑星・彗星発見プロジェクトを運営、自らが発見者になり命名権を授与されるなど、青少年に夢を与えること、安房鴨川駅まで銀河列車を走らせ、都心から夜汽車に乗って天の川を見に多くの人が訪れる。地元の海の幸、山の幸を堪能していただく。そして温泉で心身を癒していただく。このような夢が現実になる日を目指して地道に活動して行きたい。

参考までに当会理事経営の「レストラン・キッズ」には、山田義弘当会顧問／東亜天文学会理事長／東大天文学研究センター顧問から預りの南米チリに落下した「カンポ・デル・シエロ大型隕石」が展示されている。天文台完成の暁には、天文台に寄贈されることになっている。是非とも天文台の建設を念じながら触れて頂きたい。

▶冬の大三角とめらぼし

【会の概要】

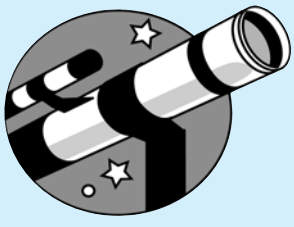
代　表　石井哲爾
副代表　椎野瑞穂
事務局長　石井崇裕

会員数　82名
（平成25年6月15日現在）

発　足　2003年
（含準備期間）

活動履歴
署名活動＝成果約7000名
調査＝国内公開天文台の調査

講演会など
まちかど観望会
依頼観望会、天体撮影
各種研修会の開催
千葉日報・房日新聞
　星空写真掲載多数
NHK　TV放送
高校地学
BS放送「コズミックフロント・星の狩人」
NHKラジオ
FM千葉「ひるどきトーク」



★鴨川市に天文台をつくろう会★
http://kamogawatenmondai.com

アンテナショップにぜひご来店を！

東京都内に鴨川の特産品などを販売するアンテナショップがあるのをご存知ですか。

板橋区内にある２つのアンテナショップ「とれたて村」は、鴨川市と板橋区が友好都市として交流していることがキッカケとなり、このショップを通じた「人・物・情報」の交流を目的として、平成17年10月に開店しました。

板橋区と友好関係にある全国１５の市町村の特産品など約1,000アイテムが並ぶ中、鴨川の商品は人気が高く、すぐに売切れてしまう物もあるほどです。鴨川の商品には、千葉ブランド水産物である「房州ひじき」や「さばの照り焼きスモーク」、「長狭米」、新鮮野菜や切花などがあり、常時100アイテムほどが販売されています。

お客様には、「新鮮で安全な野菜などの農産物や加工品が、産地に行かなくても買うことが出来る」と評判です！鴨川以外の全国各地の特産品も併せてお買い求めいただけるのも魅力の一つです。場所などは以下のとおりです。お近くの方は是非お立ち寄りください。

〈ハッピーロード大山商店街“とれたて村”〉
板橋区大山町27-9 ☎03(3958)9040 東武東上線大山駅から徒歩３分

〈上板南口銀座商店街“とれたて村”〉
板橋区上板橋2-30-2 ☎03(3559)1786 東武東上線上板橋駅から徒歩３分

ふるさとの味 鴨川の味覚を満喫して ふるさと産品セット

これまで、本会では総合交流ターミナル「みんなみの里」の協力により、会員の皆様向けに特別商品プラン「ふるさと産品セット」を紹介してまいりました。

今年も、本会報にパンフレットと申込書を同封しましたので、ご自宅用またはご贈答用に、鴨川の味覚をぜひお楽しみください。

今回事務局からお奨めする特産品は、鴨川産「中玉トマト」です。

ハウスの中で、極力水分を与えず栽培したトマトです。

トマトは、水分を与えないと糖度が増し、味も濃厚になります。

おやつ感覚で食べられる大評判の美味しいトマトです。

●ふるさと納税の平成24年度実績

本会では、「鴨川市ふるさぽーと寄附金（ふるさと納税）」への積極的な協力を勧奨しています。

平成24年度の鴨川市へのふるさぽーと寄附金の実績は、全体としては99件（三百九十六万二千二百二十円）で、うち会員の皆様からのご寄附は23件（八十七万円）でした。温かいご協力に感謝申し上げます。

なお、ふるさと納税について、詳しくは、市の専用ホームページ「鴨川ふるさぽーと」をご覧いただくか、下記の事務局までお問い合せください。

「企業等誘致委員会」の委員に就任

石川会長

当会の石川会長が、鴨川市長からの委嘱を受け、「鴨川市企業等誘致委員会」の委員に就任しました。

この会議では、地域経済の振興を図るため、市長からの諮問に応じ、「鴨川市における今後の企業等誘致施策のあり方について」調査・審議を重ねています。

●掲載記事を募集します！

事務局では、会員の皆様からの会報記事を募集しています。日頃感じている鴨川への想い、マイブームの紹介、身の回りの小さな出来事などを会員のページに掲載してみませんか。前号では、昼間洋子副会長に故郷のお祭りへの粋な想いを語っていただき、今回は、会員の石井崇裕さんに「鴨川市に天文台をつくろう会」について、寄稿していただきました。ありがとうございました。

今後も会員同士の交流を深める場、報告の場などとして、お気軽にご利用ください。

会員募集チラシ作成しました

事務局では、少しでも多くの鴨川出身者、ゆかりの方々に入会してもらおうと、新規会員募集用のチラシを作成いたしました。

今回の皆様への会報の発送に併せて、５枚ずつ同封させていただきました。皆様のお知り合いの中で鴨川出身の方、鴨川にゆかりがあり応援したいという方へお配りいただくなど、会員募集にご協力ください。

◎鴨川出身の方などのお店をご紹介ください

次号から、鴨川出身の方などが経営している店舗などを会員の皆様にご紹介していきます。自薦他薦は問いません。

同封のご紹介用紙に必要事項をご記入のうえ、事務局にご返送ください。

掲載についてのご了解等に関しては、事務局で再確認いたしますので、ドシドシお寄せください。